秀峰会の取り組み

秀峰会は、福祉業界のパイオニアとしてさまざまな取組みを行っています。
「すべては、地域の方々の福祉ニーズに応えるため。ご利用者お一人おひとりがその方らしく生きることができるように。」その思いが取り組みの原動力です。

在宅介護を支えるスペシャリスト、多職種連携チーム

セラピー犬のナナと一緒に♪

ヒューマン・ケア・ネットワーク

- 地域の人々とともに、地域の人々のために -

ヒューマン・ケア・ネットワークは、地域の人々の福祉ニーズに包括的・統合的に応える仕組みで、秀峰会の事業展開の基本構想です。
「住み慣れた自宅で最期まで過ごしたい」と願う方々のニーズに応えるために、多様なサービスを有機的に連携させる必要があると考え、総合的な介護サービスの提供、さらには看護、リハビリ、医療、保育、障がい者支援など、地域の方々にとって必要なサービスを包括的に提供しています。
ご利用者お一人おひとりが最期までその方らしく生きていくことができるよう、支援させていただくことが私たちの使命です。

居宅介護支援・訪問介護・訪問看護リハビリが三位一体となった最初の施設「銀鈴の詩」

CAPP 活動 - 日本初のアニマルセラピー -

CAPP（コンパニオン・アニマル・パートナーシップ・プログラム）活動とは、一般にアニマルセラピーとよばれる「人と動物のふれあい活動」のことです。
公益社団法人 日本動物病院協会の支援により 1986 年から始まりました。
動物とふれあうことによる「精神的なやすらぎ」への期待や、一緒にレクリエーションなどを行うことによる「QOL(生活の質) の向上」などを目的として、秀峰会の特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム、小規模多機能型居宅介護などでは、犬や猫などの動物がご利用者と一緒に暮らしています。

富士山がモチーフ メモリアル・ピーク

療育音楽の発表会

デス・エデュケーション（死への準備教育）

- 死を考える、感じることで「生」を見つめ直し、よりよい「生きる」を考える -

上智大学名誉教授のアルフォンス・デーケン氏によって提唱された「死への準備教育」。秀峰会の介護サービスを受けられている高齢のご利用者は、常に老いや病、いつか訪れる「死」という重い現実に向き合っています。ご利用者がどのように死を受け止め、生きていこうとしているのか。
法人墓地「メモリアル・ピーク」や「お別れ会」など、私たち秀峰会では、死に対しての共通理解を深め、この考え方を何よりも大切にしています。

高齢者施設と保育園の世代間交流

地域福祉のためのさまざまな取り組み

地域の小学校や中学校で福祉について学んでもらう「社会科学習」、秀峰会の高齢者介護施設と保育園の「世代間交流」、数百人の職員が集まり地域福祉への成果などを発表する「地域包括ケア発表大会」、他にも、地域の皆さまを招いて「夏祭り」、「ふれ愛運動会」、「炭火で秋刀魚を食べる会」、「焼き芋会」、「健康フェスタ」など、さまざまな取り組みを行っています。

小学校での社会科学習

「秀峰会アカデミー」を開設

2021年に「職員の、職員による、職員とご利用者のための」教育プログラムを開始しました。各ジャンルにおける専門性を有した職員が、自らプログラムを作成し、受講を希望する職員は誰でも学ぶことが出来る法人内アカデミーです。秀峰会では、常に職員のスキルアップを図る「学びの機会」を大切にしています。
多くの事業所では、中堅層の職員に向けてマネジメントや職員育成に力を入れた研修も実施しています。

科学的根拠に基づく介護スキル

川崎の特別養護老人ホーム 高津 山桜の森

地域包括ケア発表大会